

日本産業衛生学会東北地方会ニュース

みちのく

No.63

5/31

2020

発行／令和2年5月31日・発行所／日本産業衛生学会東北地方会事務局

住所／〒980-8575 宮城県仙台市青葉区星陵町2-1（東北大学大学院医学系研究科産業医学分野内）

電話／022-717-7874・FAX／022-717-7883・e-mail/sanei-michinoku@doh.med.tohoku.ac.jp・発行人／黒澤 一

日本産業衛生学会東北地方会中止

～新型コロナウイルス感染症拡大への対応について～

日本産業衛生学会東北地方会長

黒澤 一

会員の皆様には、新型コロナウイルス感染症への様々な対応をされておられて、また、ご自身の生活の上でも、非常に特殊な状況を感じておられるのではないかと存じます。まさに、2011年の東日本大震災を思い起こさせるような事態ともいえるこの頃ではないでしょうか。

このような中、弘前大学の井原教授を会長として、7月に予定しておりました本年の第79回産業衛生学会東北地方会について、井原先生とも協議の上、たいへん残念ながら中止の判断をいたしました。周知の非常事態であり、開催できるような状況ではありません。また、延期としても、いつ開催できるかなど全く不透明ですし、そのような中でも報われるかどうかかもしれない開催準備のご苦勞をお願いすることも現実的とは思えません。また、Web開催などの選択肢もありましたが、即席でできるほど簡単ではないと判断いたしました。ご意見をいただいた代議員・監事の皆様、相談させていただいた福島業務執行理事に深く感謝申し上げます。また、事業場見学、演題発表や懇親会等の開催準備をしていただきました弘前大学の井原教授をはじめ関係の皆様には心より感謝申し上げます。以上、中止の決定に関して、会員の皆様には、あらためてご理解をいただけますと幸いです。

コロナ後の社会が注目されています。産業衛生に関わる私たちの業務にも多少なりともその対応が求められることになると思います。また、経済がひどく落ち込み、企業の再生という点も大きな焦点です。私たちがどのようなスタンスで関わっていけばよいのか、そのような観点も必然になっていくものと思います。次回の第80回は、秋田大学の野村教授を会長として秋田で開催の予定です。皆様の積極的なご参加と情報の共有、ディスカッションおよび会員相互の親睦が図られることをあらためてお願いする次第です。

第 79 回日本産業衛生学会東北地方会中止のご報告

弘前大学大学院医学研究科社会医学講座
井原一成

本年 7 月に青森市において開催予定の第 79 回産業衛生学会東北地方会は、新型コロナウイルス感染症流行のため中止となりました。既にお聞きおよびのこととは思いますが、今年の地方会の開催の準備を進めて参りました弘前大学の関係者として経緯をご報告申し上げます。

年初より国内での流行が始った COVID-19 は、令和 2 年 4 月 7 日に 7 都府県に改正新型コロナウイルス感染症等対策特別措置法による緊急事態宣言が発出されました。その少し前から他学会における中止や延期の報を耳にするようになっていましたが、そうした中、東北地方会長の黒澤一教授に、理事の福島哲仁教授も加わっていただきながら学会開催の可否につき相談する機会を設けていただきました。青森県では、開催予定の学会場のメイン会場が 3 密を避けるために利用人数の制限を開始していること、事業所見学、特に移動のバスは 3 密になることを避けられないこと、懇親会は開催が困難であることなどを報告し、会員の方々のコロナ感染を防ぐために中止もやむを得ないのではないかという私どもの考えを申し添えました。その後、黒澤教授と福島教授から東北地区の代議員・監事の先生がたに開催の可否につきお諮りいただき中止の方向となり、黒澤地方会長より学会理事会に中止をご報告していただきました。なお、この間に、緊急事態宣言の対象が東北を含む全国に広がりました。

東北地方における産業衛生の向上と発展と会員相互の親睦を図る上で大切な地方会が中止となりましたことを大変残念に思いますし、東日本大震災の際にも開催された歴史のある本会の中止を重く受け止めています。特別講演をお願いしていた弘前大学の村下公一教授と、事業所見学をお願いしていた株式会社青南商事様と関東学院大学の熊江隆先生とにこの場を借りてお詫び申し上げます。また、学会の準備を進めるにあたってご示唆を賜りました代議員の菅原保先生と色川俊也先生、協賛を賜りました青森県労働基準協会と共催の青森県にお礼申し上げます。

東北地方会は年 1 回、東北 6 県の持ち回りで開催されるものです。次の青森での開催時には皆様にお越しいただき最新の研究や活動をご報告いただくとともに、親交を深めることができることを願っております。

職場における新型コロナウイルス感染症（COVID-19）対策に役立つ情報

日本産業衛生学会東北地方会事務局

東北地方会会員の皆様には、各事業場における感染対策のキーパーソンとしてご活躍のことと存じます。

厚生労働省の HP や日本産業衛生学会 HP 等でも既に「職場における新型コロナウイルス感染症の拡大防止」に関する情報が掲載されておりますが、皆様のお役に立つその他の情報をいくつかご紹介させていただきます。是非、ご活用下さい。

1. 厚生労働省

新型コロナウイルス感染症対策の基本方針

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164708_00001.html#houshin

職場における新型コロナウイルス感染症の拡大を防止するためのチェックリスト

<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000617721.pdf>

新型コロナウイルスに関する Q&A（企業の方向け）

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/dengue_fever_qa_00007.html

2. 日本産業衛生学会

職域のため n 新型コロナウイルス感染症対策ガイド（2020年5月11日版）

<https://www.sanei.or.jp/?mode=view&cid=416>

3. 日本産業保健法学会

新型コロナウイルス感染症に関わる労務問題 Q&A

<https://jaohl.jp/qa/>

4. 産業医有志（今井・櫻木・田原・守田・五十嵐＝東北地方会員）の5名の先生方による企業向け（経営者・総務担当向け）に対策案を情報配信していくプロジェクトが配信している情報

<http://www.oh-supports.com/corona.html>

5. 京都大学名誉教授 川村孝先生による小論（山中伸弥教授による新型コロナウイルス情報発信内の掲載）

「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に関する諸問題」

<https://shard.toriaez.jp/q1541/750.pdf>

渡辺孝男先生（東北文教大学，人間科学部，教授）ご逝去のお知らせ

2018年12月末、本会会員の渡辺孝男先生がご逝去されました。渡辺先生は、東北大学医学部在職中には東北地方会事務局をお務めいただいたと伺っております。東北地方会一同、渡辺先生のご冥福をお祈りしたいと存じます。尚、生前の渡辺先生をご存じでおられる仙台錦町診療所産業医学センター長の広瀬俊雄より追悼文を拝受しておりますので謹んでご紹介申しあげます。（事務局がご逝去のお知らせをいただきましたのが昨年後半となりましたため、ご報告が遅くなりましたことお詫び申しあげます。）

渡辺孝男先生を偲んで

仙台錦町診療所・産業医学健診センター 広瀬俊雄

渡辺孝男先生が2018年12月に、御亡くなりました。いつもおだやかで・やさしく接して戴いておりましたので、とてもびっくりし・悲しくなりました。最後に御会いしましたのは、確か、一昨年、東北大学星陵会館で行われました、日本産業衛生学会東北地方会だったかと思えます。

実は、私は、仕事で御一緒したことは無かったのですが、本学会や衛生学教室の同窓会では、大変御世話になりまして、忘れられない先輩です。私は、宮城厚生協会(坂総合病院や仙台錦町診療所等が属する)に勤務する医師ですが、呼吸器について第1内科に勉強に出して貰いましたが、同時に産業医学科をも担当することになり、書籍・雑誌を閲覧する為に、衛生学講座の大学院研究生になり、同窓会にも入れて貰いました。そこで、渡辺先生に大変御世話になった次第です。渡辺先生の御業績については、間接的にしか知りませんので、詳しい小泉昭夫先生(東北大学衛生学助教授⇒秋田大学衛生学教授⇒京都大学公衆衛生学教授・名誉教授)に御聞きしましたことをかいつまんで御紹介致します(略歴も御参照下さい)。

「渡辺先生は、農村衛生から産業保健、環境保健と多岐に御活躍されました。東北地方で農村貧血に注目し、故加美山茂利先生、池田正之先生と共同研究を進められました。最近のことでは、東日本大震災に伴う原発事故直後には、私達は、渡辺先生と共に福島県で調査を行い、地域の農業を生業とする住民に多血症の方を高頻度で認めました。多血症は、その後多くの研究でも確認され、脳梗塞などのリスクとして危惧されています。原因は不明ですが、被災地で農作業が減少したことと関係があると考えています。またスチレンをはじめとして多くの有機溶剤のバイオロジカルモニタリングでも成果を挙げられましたし、1980年代からは国内および東南アジアにおいて、ヒ素やカドミウムの汚染などの調査を行い、数々の成果を残されたことで知られております。その成果である資料や生体試料は、現在バンク資料として京都大学で継承しています。渡辺先生は、加美山先生が考案された<陰膳方式>をより発展させ、調査手法としてとして確立されたことでも評価されています。渡辺先生は、フットワーク軽く共同研究や指導を行われ - **敬せず、排せず、軽んじず**(安藤昌益) - を地で行く研究者として、先輩、同輩、後輩からも慕われていました」(小泉昭夫先生談)とのことでした。

渡辺先生の御業績を改めてかみしめると共に、謹んで御冥福を御祈り申し上げます。

略歴

1985年度：東北大学医学部衛生学講師

1999年度：宮城教育大学，教授

1986年度；同助教授

2008年度：宮城教育大学，名誉教授

1989年度；宮城教育大学，助教授

2010年度 - 2018年度：東北文教大学，人間科学部，教授

産業看護とうほく

第37号 2020. 4

発行者: 日本産業衛生学会東北地方会

産業看護部会

連絡先: 〒030-8505

青森県青森市大字浜館字間瀬 58-1

青森県立保健大学 看護学科 千葉敦子

発行責任者: 千葉敦子・村越亜弥子

○ 産業看護のつとめ 中止のご案内

東北地方会中止に伴い、今年度の産業看護のつとめは中止となります。
来年度の産業看護のつとめでお会いできることを楽しみにしております。



○ 各県の産業看護部会活動報告 (2020年1月時点)

- [青森]** 3月に3者合同研修会として「ナッジ理論」をテーマに青森県立保健大学の竹林先生による研修会を開催予定である。運営委員が交代した。
- [秋田]** 秋田大学保健師コース学生の統合実習を行った。秋田産業保健総合支援センター主催の「企業における健康保持増進活動」「知っておきたい認知症の基礎知識」研修に多くの産業看護職が参加した。秋田県精神保健福祉センター主催の「ギャンブル障害の精神保健相談・支援の実践研修」では、具体的内容を学ぶことができた。運営委員交代予定。
- [山形]** 山形産業保健総合支援センター主催で「相談支援方法を振り返る」研修会が開催され、フィンランドのネウボラで実際に活用されているコミュニケーション演習を体験し、各自の相談支援方法を振り返る機会となった。また前年度に引き続き、産業看護職の事例検討会が開催され、発達障害等の事例について検討した。運営委員が交代した。
- [岩手]** 岩手産業保健総合支援センター主催で「治療と仕事の両立支援の進め方」「事業場における産業保健活動の進め方」「産業保健組織・スタッフの活用」「メンタルヘルス対策」等の研修会が開催され、「事業場における産業保健活動の進め方」では、産業保健活動の好事例等が紹介されていた。2月下旬に産業看護職の集いを盛岡市で開催予定である。
- [宮城]** 仙台為になる産業保健勉強会は「中高年労働のための安全衛生管理—エイジマネジメントを考える—」等をテーマに開催予定である。宮城産業保健総合支援センター主催で「メンタルヘルス不調者の職場復帰の進め方」等の研修会が開催された。すいようびのネットワークコミュニティや仙台MI研修会、リワーク会社による研修会等が開催されている。
- [福島]** 福島産業看護研究会は、2020年のテーマを「人生100年時代に向けた健康管理 part2」とし、栄養指導、運動指導、健康寿命延長等の勉強会を2か月毎に開催予定である。福島産業看護協議会は、福島県産業保健総合支援センターと共催で年2回研修会を開催し、2月に福島市で「保健指導において困難な事例への対処法」を開催予定である。



編集後記: 2019年から運営委員となりました。よろしくお願いいたします。本欄執筆時点で、新型コロナウイルス感染症の影響により、多くの企業・事業所でWeb会議や在宅ワークの導入、あるいはやむなく休業、離職など、働き方が大きく変化しています。専門職としてできることは何か考えさせられる日々です。一日も早い終息を祈るばかりです。(山形: 森鍵祐子)

会員の異動(令和元年12月から令和2年4月)

■青森県

新入会 原田 亜梨沙 (青森産業保健総合支援センター) 退会 千葉 江身子
退会 七尾 郁子
山下 泉
移動 吉田 稔 (東京純心大学)

■秋田県

■岩手県

新入会 高橋 久美子 (有限会社大盛印刷)
退会 板井 一好

■山形県

新入会 一柳 統 (山形県立河北病院)
退会 岡田 夏子

■宮城県

新入会 川尻 舞衣子 (東北大学大学院医学系研究科・学生会員)
中村 康香 (東北大学大学院医学系研究科)
和田 彩 (東北大学大学院医学系研究科)
三上 恭訓 (東北大学工学研究科)
退会 須田 祐司
移動 平田 匠 (北海道大学大学院医学研究科公衆衛生学教室)

■福島県

新入会 小野 道子 (福島県立医科大学・学生会員)
移動 稲毛 映子 (医療創生大学看護学部)

編集後記

前号発刊の際には予想だにできなかった新型コロナウイルス感染症の拡大により、世界中が大混乱となるなか、会員の皆様には、ご所属機関にて対応業務にあられるなどご多忙な毎日をお過ごしのことと推察いたします。あらゆる国内外の学会や、世紀の祭典、2020東京オリンピックまでが延期となり、7月に青森県で開催予定だった第79回東北地方会も残念ながら中止となりました。地方会開催に向けて昨年来、準備を進めて下さいました、弘前大学社会医学講座の皆様には心より御礼申し上げます。このような現状を踏まえ、今回の「みちのく」は、第79回東北地方会学会長である井原一成先生と東北地方会長の黒澤一先生からのご挨拶を掲載し、例年、地方会の案内を掲載していた誌面は、会員の皆様にお役に立つであろうと思われる新型コロナ感染症に関する話題を掲載させていただきました。又、仙台錦町診療所産業医学センター長の広瀬俊雄先生から頂戴いたしました、渡辺孝男先生(2018年12月ご逝去)の追悼文を掲載させていただきました。渡辺先生は、東北大学医学部在職中は、産業衛生学会東北地方会の事務局を担当されていたとも伺っております。地方会事務局一同、改めてご冥福をお祈りしたいと存じます。

全国的に緊急事態宣言は解除となりましたが、治療薬やワクチンなど対応手段が確立していない現状では、先行き不透明といわざるを得ません。無事に収束を迎え、次年度こそは、秋田県で開催される地方会で会員の皆様と明るい気持ちで再会したいものです。会員の皆様のご健勝をお祈り申し上げます。(T.I.)